

ARTなエンブリオ通信 ③

福井大学医学部附属病院 高度生殖医療センター

2026年10月 第3号

このエンブリオ通信は、不妊治療、とくに生殖補助医療（ART）について幅広い方に知っていただくためのものです。基本の解説から最近のトピックスまでわかりやすくお届けします。

ARTによる出生児は年々ふえています

最新の報告では、国内で2024年にARTにより誕生した新生児は過去最多の8万6473人、これは24年に誕生した新生児の8人にひとりの割合です（図1）。また、不妊治療が保険適用になって以降はARTへのステップアップが早期化するなど、ARTは不妊治療のひとつとして一般的になってきています。

ARTへのステップアップです



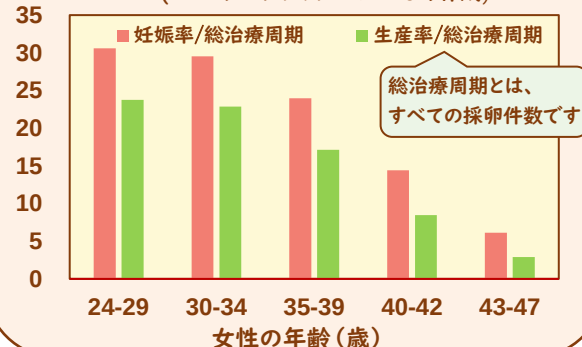
図1 全新生児におけるART出生児数の推移
(ART データブック 2024 より作成)



ARTの適応と治療成績-妊娠率は高くなります

ARTは卵管閉塞や男性不妊の方が適応ですが、一般不妊治療で妊娠に至らなかった方も適応になります。治療成績は一般不妊治療と比べ高くなります。人工授精1回あたりの妊娠率が平均5~10%であるのに対し、**胚移植1回あたりの妊娠率は平均40%**と報告されています。34歳以下であれば胚移植あたりの妊娠

図2 年齢別治療周期あたりの妊娠率と生産率
(ART データブック 2024 より作成)



率は50%以上なので、良好な胚を2回移植すれば多くの方が妊娠することになります。ただし妊娠できても流産に終わることがあるため、実際に出産に至った確率である**生産率**が重要になります（図2）。そしてARTでも妊娠率、生産率は年齢とともに低下します。ARTの保険適用は**年齢制限と移植の回数制限**があり、制限を超えると自費診療となります。

ARTは女性の負担が大きいです-ご夫婦で歩幅を合わせてすすんでください

ARTはホルモン剤の投与や採卵術など**女性の体に大きな負担**がかかります。また通院時間の工面や治療が思うように進まない不安やストレスなど**こころの負担も大きい**です。ある調査*ではARTを受ける女性の半数以上が気分の落ち込みを経験するそうです。もし治療中につらいこと、わからないことがあれば

ひとりで抱え込まずご相談ください。いつか笑える日のために、ご夫婦が**正しい知識をもつて納得のいく治療を選択していただけるよう**にサポートいたします。

*国立成育医療研究センター プレスリリース(2021)

高度生殖医療センターHPには当院の治療成績を載せています

